

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492100068
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田
訪問調査日	令和2年12月10日
評価確定日	令和3年3月19日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492100068	事業の開始年月日	平成21年3月1日	
		指定年月日	平成21年3月1日	
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社			
事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田			
所在地	(248-0029) 神奈川県鎌倉市笛田一丁目8番54号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月26日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

センター方式を活用した入居者へのケア展開を行っている。
 研修については外部講師を招いてOJTを通じながら、ケアの充実を図っている。
 人材育成については研修PJを立ち上げ、継続的に部内での研修企画を定着発展させる活動を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和2年12月10日	評価機関 評価決定日	令和3年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、三菱電機ライフサービスの運営です。同法人は総合福祉サービス会社として「健康で豊かな暮らしの実現にサポートします」と謳って、全国10支店を持ち訪問介護、ケアプラン作成、デイサービス、グループホーム、介護付き有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け賃貸住宅、小規模多機能ホーム、福祉用具レンタル・販売などの福祉事業を展開しています。グループホームは全国に22か所を有し、湘南支社では在宅サービスの「ケアハートガーデン」「レーベル湘南」に加え、グループホームは「鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田」と相模原市に「あじさい」があり毎月合同で研修を行う等、相互に連携を取りあって職員の資質向上に努めてサービスの質向上に繋がられています。ここ「鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田」はバス停「手広」から鎌倉手広郵便局の横道に入って徒歩2分の住宅や畑に囲まれた静かな環境の中にあります。
 ●事業所では職員の育成・教育に注力し、外部講師を招き研修会を1回/月、定期的に開催して介護職としての必要知識の習得を図り職員資質の向上に努めています。新入職員の育成では、チューター制度によるマンツーマン指導で質の高い指導教育が行われています。さらに、法人ではキャリアパス制度を採り入れ、事業所職員も「目指す自分を定めて」自己成長プランを立て、年2回の施設長の面談指導の下に、資格取得につなげた見える化の下に研鑽しています。
 ●入居者への適切な医療支援の取り組み。このホームでは入居者の健康維持に注力していて、毎週水曜日には訪問看護師の来所による健康チェックや処置に関する相談が行われて医療処置が必要な場合には医療メモを作成して主治医と連携の上適切な対応が行われています。更に1回/月、主治医・訪問看護師・薬剤師・事業所での、医療カンファレンスが行われています。ここでの検討事項は入居者の病気症状の確認とその状況に応じて出される薬の効果や場合によっては副作用などに関して話し合い、安全を期した入居者の医療管理が行われています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「お客様の元気な笑顔が私達の喜びです」を休憩室と事務所に貼り出し、朝の申し送り時に読み上げ、共有を図っている。	法人の理念「お客様の元気な笑顔が私たちの喜びです」を休憩室と事務室に掲示している他、理念・方針・社員心得が記されたCREDOを作成し、全職員に配布され、常に携行しています。さらに朝夕の申し送り時に唱和し、共有を図っています。年度初めには年間スケジュールを家族に説明しつつ理念・方針についても説明しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、土地建物オーナーが近所の事もあり日常的に交流がある。(農家なので野菜を頂いたりする) また、ボランティアとして地域の方やご家族が来たり、演奏会を開いたりしてくれている。(現在はコロナウイルス感染予防対策にて自粛中)	町内会に加入しており、土地建物のオーナーが近所にお住いで農家でもあることから野菜などを頂いたりすることもあり、日常的に交流が行われています。音楽ボランティアの方による演奏会も開催されています。(現在はコロナウイルス感染予防対策の為にボランティアの受け入れは自粛中です。)	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡会に参加し施設の地域での役割などについて紹介している。(現在はコロナウイルス感染予防対策にて自粛中)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の実施を予定している。防災訓練と一緒に参加して頂いたり、施設内での取組みについても意見を頂いている。(現在はコロナウイルス感染予防対策にて自粛中)	3ヶ月毎に年4回の実施予定で町内会長・民生委員・包括支援センター職員・鎌倉市高齢者いきいき課介護保険担当・各ユニットから1名づつ家族に参加していただき、事業所の現状や活動報告に対して意見、提案をいただき、サービスの向上につなげています。(現在はコロナウイルス感染予防の為に対面の推進会議を自粛し、代替えとして紙面をもった情報の提供で意見、提案を頂いて運用する事を検討しています。)	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緊急時は勿論、苦情相談や連絡会による意見交換等に参加し、積極的に運営上の相談を行っている。	鎌倉市高齢者いきいき課介護保険担当窓口とは電話・紙面で緊急時対応や、苦情相談を行っています。さらに、市からの情報の収集に加え意見交換等もFAXを使って行っています。事業所からは3ヶ月毎の「空き室情報」報告等も含め、積極的に運営上の相談等を行うなど協力関係の構築に努めています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不審者侵入防止の目的で玄関はオートロックとなっている旨、家族には理解を頂いている。又、契約書等に拘束しない事を明記、説明している。	建物の構造上、玄関はオートロックとなっている旨を家族に理解していただいています。年1回はマニュアルに沿って研修を実施し、事業所内の身体拘束廃止委員会でも、身体拘束に該当する行為などについての認識を深め、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護マニュアルに沿って年2回は研修を実施している。又、身体拘束廃止委員会を設置し、2か月に1度の定例で開催し、身体拘束に該当する生活支援・介護が行われていないことを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用されていた方がおり、後見人の方と話し合う機会もあったが、その方は現在は退所されている。ご家族向けには情報としてセミナーの案内なども提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を見てもらいながら口頭でも説明し、質問が無いか聞きながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々面会時やご連絡、ご家族参加のカンファレンス等で、意見、要望の確認を行っている。又、家族懇談会を開催し、意見の聴取を行い運営に活用している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）	日々の連絡や、ご家族参加のカンファレンスに加え、家族懇談会を通じての、意見、要望の確認も現在はオンラインで行い、運営に活かしています。コロナ対策でご家族の面会が閉ざされていますが、写真掲載の充実の笛田だよりでご家族の満足を図っています。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて従来の会議・面会は自粛しています。）	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のリーダー会議及び1回/月のユニット会議時、また、2回/年の職員会議では職員同士の意見交流を行い、1回/年の職場懇談会に於いて職員の発信を求めている。又、それを活用している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中であるが、テレビ会議等活用して開催している）	毎月のリーダー会議及びユニット会議には施設長も参加しており、その場で職員から意見や提案を募っています。また、年2回の4事業所合同の職員会議では、職員同士の意見交流会も行っています。年1回実施している職場懇談会でも別に話を聞いています。（現在はコロナウィルス感染予防対策の為対面活動は自粛中ですが、テレビ会議等に切り替え開催しています。）	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談等を定期的に行い、意見などを施設長及びリーダーで取り纏め、要望として代表者へ挙げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画に基づく社内研修の実施・参加、及び未習熟者への個別研修の機会を確保している。また、社外研修の参加や外部講師によるシリーズでの研修等を実施している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）また、資格取得支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外では、市内の地域密着型サービス事業所との連絡会等や研修へ参加している。社内では、介護サービス事業展開全場所対象の研修を通じ、質の向上に努めている。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時のアセスメントにおいて、センター方式シートを家族・本人と共有し、受け入れの準備を行っている。又、本人を交えた面談や見学等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じ。疑問・相談に対して丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基づいた包括的な視点を持ち、家族・本人が最も安心できる方法を共に選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝ってもらった時にはお礼を言い、生活を楽しくしてもらえるようにしている。ご本人に出来ることはやっていただき、できないことは共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ケアは協働で行うもの」と位置付け、事前説明および契約時に了解を頂くようにしている。支援の経過や方法も相談しながら対応している。ご家族には協力して頂くことが出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が寂しくないよう、ご家族の面会には制限を設けず、ご友人が来られた場合も歓迎の声をかけることで、気軽に来所できるような環境作りに努めている。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中。オンライン面会を試行中）	ご本人が寂しくないよう、知人、友人の面会来訪は制限を設けず、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。家族の面会時には孫を連れて来られる方も多く、気軽に来所できる環境作りに努めています。（現在はコロナウィルス感染予防対策の為面会は控えて頂いていますが、タブレットを活用したオンラインでの面会等も実施されています。）	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係に配慮して配席を決めたり、コミュニケーションの仲介やレクリエーション・生活の場面を通じて交流を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていたご家族にボランティアとして演奏会に来ていただいたり、入居者の紹介をしていた。また、以前入居されていた方の配偶者が入居されたこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らしの情報シートを事前に記入してもらい、思い・希望の把握を行っている。ご本人がふとこぼした発言を記録に落とし、ケアの改善に繋げることがある。カンファレンス等でも行動の裏にどういご本人の思いが隠れているかをスタッフ皆で考えるようにしている。	入居前に「暮らしの情報シート、私の出来る事」を事前に記入してもらい、本人の思い・希望の把握に努めています。入居後は日頃の会話で「食べたい・行きたい」など、その方の発した言葉を記録に落とし、ケアの改善につなげています。カンファレンスでも、行動の裏にどういご本人の思いが隠れているのか考え、想いの実現に努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の家族シート、私の生活史シートを事前に記入してもらい、これまでの人生の経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私の暮らし方シート、私のできる事/できないことシートを事前に記入してもらい把握に努めている。日々の記録をアセスメントの視点を持って記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人に対し、2回/年（認定更新時にご家族にも参加していただいて）のケースカンファレンスを行っている。また、必要に応じて、適宜ミニカンファレンスを開催し、ケアの変更を行い介護計画を作成している。	通常その人の現状を踏まえて、6ヶ月毎の（認定更新時にご家族にも参加していただいて）ケースカンファレンスを行って介護計画を作成しています。また、変化が見られた時には必要に応じて、適宜ミニカンファレンスを開催し、現状に即した介護計画を作成しています。	今後継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の様子、ケアの実践結果、気付きの記録(D-4シート)を記入し、日々の情報共有を行うと同時にケースカンファレンスに活用し、計画やケアの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者の担当職員やユニットリーダーを窓口として、ユニット内や施設長と相談しながら様々なニーズに応えられる様に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長くお付き合いのあったご友人等も気軽に会いに来られる様に対応している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）また、本人の在宅時の支援者の情報収集を行う様にしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回主治医の診察があり、1回/月、主治医、訪問看護師、薬剤師、及び事業所とで医療カンファレンスを行っている。又、日々の変化についても家族・主治医との仲立ちをしながら入居者が適切な医療を受けられる様に支援している。	2週間に1回、主治医と薬剤師の来訪があり、良好な連携の下に適切な医療支援が行われています。眼科、歯科は必要に応じての都度往診が行われています。また、月1回は主治医・訪問看護師・薬剤師・事業所による医療カンファレンスを行い、入居者の状況確認及び投薬効果や身体状況変化などについて情報を共有しています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師に来てもらい、ご入居者の健康チェックや処置等の相談を行っている。変化があった際は緊急性が高ければ電話で、低ければFAXで報告を行い、訪問診療・看護時には医療メモを作成し、情報提供、相談を行っている。また、インターネットを使ったコミュニケーションツール（MCS）を活用し各医療関係者との情報提供や情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、面会に行き、状態の確認と病院関係者との情報交換を行い、退院時期の相談もしている。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて入院先の指示に従って対応している）		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化の指針」について説明している。又、主治医からも訪問診療開始に当り、終末期等の治療・医療体制の希望について意向確認を行い事業所と共有している。容態が変わった時は必要に応じ、主治医、ご家族と話し合い、ケアプランにはその支援内容をのせている。	入居時に「重度化の指針」を基に終末期対応を説明しています。また、主治医からも訪問診療開始に当り、終末期の治療・医療体制の説明と共に希望・意向の確認を行い事業所と共有しています。状態の変化が生じた際には、事業所責任者、主治医、ご家族による話し合いの場を設け、家族の意向に沿った支援に取り組んでいます。事業所では、訪問看護師による看取りの研修も実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網を作成し、スタッフが普通救命講習を受講するようにしている。（今年度はコロナウィルスの関係で未講習）		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回防災訓練を実施しており、様々な状況に対応出来るように努めている。防災用品の棚卸しも年2回実施している。 地域との協力体制は今後の課題である。	事業所では年4回、最寄りの消防署立会いの下で通報・消火・避難訓練を実施し、様々な状況に対応出来る様に努めています。事業所を災害時の一時避難場所としての提供や「AED」の緊急時利用等を告知し、地域との繋がり構築を進めています。備蓄品は水や食糧の他、衛生用品、懐中電灯、ラジオなどを準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけ、ご本人が分からないことや、失敗してしまったことに対しても、尊厳を傷つけないような対応をしている。ご入居者の前で他のご入居者の話をする時は名前を分からないようにして話している。	日々の何気ない会話時にもスピーチロックや命令口調にならないよう留意し、不適切な声かけや対応にならないよう職員同士注意し合っています。入浴介助や排泄介助を行う際には、羞恥心にも配慮して対応しています。リビングで入居者の話をする時には「誰の事か」分からない様に部屋番号で話しています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から押付けるような声かけではなく、選択肢を示して尋ねたり、提案するような声かけを工夫している。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ご入居者のペースを尊重しているが、認知症の進行に伴い、ご自分で判断出来ない方には、安心、安楽に過ごせるように対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自宅の物をお持ち頂き、洗顔や髪を整える作業を本人がしやすいように支援している。女性は化粧、口紅、マニキュア等を行っている。ヘアカットは毎月1回来ていただいて希望によりカット、カラーを行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご入居者の好きな食べ物や飲み物を出し、食事を楽しんでもらえるようにしている。片付けの時に食器を洗ったり、お盆や食器を拭くのを手伝って貰っている。栄養補助食品も高カロリーや減塩等に注目するだけでなく、美味しく召し上がれるものを選択できるよう工夫している。	食事は配食業者の物を利用して温め、食事形態は利用者一人ひとりに合わせ、追加調理を行っています。時には、利用者の希望に応え好きな食べ物（かき揚げ、稲荷ずしなど）や飲み物を提供し、食事を楽しんでいただけるようにしています。食器洗い・拭きなどは出来る方には手伝っていただき、ADLの維持につなげています。栄養補助食品も高カロリーや減塩等に注目するだけでなく、美味しく召し上がれる物を選択できるような工夫をしています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一律に決めたものだけでなく、各ご入居者の嗜好に合った飲料の提供、補食の提供、形態の調整を行っている。又、健康維持への配慮は勿論、量やバランスは個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時と毎食後に行っており、各ご入居者の状態に応じた介助もしている。状態に応じて、スポンジブラシや口腔ケアシートを活用している。また、必要に応じて訪問歯科に往診して貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人の排泄パターンを読みながら必要なケアを行っている。カンファレンス等により見直しを行ったり、方法の工夫なども行っている。壁や廊下にトイレの案内を貼り、場所が分かりやすいようにしている。排泄用品メーカーの定期的な研修を受けて、その人に合った支援を行っている。	各人の排泄パターンを読みながら一人ひとりに適した誘導を行い、トイレでの自立排泄を促しています。カンファレンスで支援方法の見直しを行い、壁や廊下に分かりやすくトイレ表示を貼るなど工夫しています。排泄用品メーカーの定期的な研修も受けて、その人に合った支援を行ってオムツのない生活の実現で快適感と費用節減を図り家族の負担軽減に注力しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、活動量の確保や薬の種類、量の調整を主治医と相談しながら行っている。薬に頼らず、プルーンやヨーグルトなども取り入れている。各人がスムーズな排便となるよう工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を実施する前に、その方の意向を確認し、無理には入らず、体調や気分には配慮している。又、寛いで楽しむことができるようコミュニケーションする等工夫している。いろいろな入浴剤を用意しその日の気分によって選んでいただいたり、ゆず湯や菖蒲湯など季節ごとの入浴を楽しんでいただいている。	入浴には快適感・清潔保持の他、身体観察での褥瘡、傷、皮膚病疾患等の発見につながることも踏まえながら、その方の意向を確認しながら入浴支援を行っています。時には、楽しむことができる様いろいろな入浴剤を用意したり、ゆず湯や菖蒲湯など季節ごとの入浴でも楽しんでいただける工夫をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の睡眠リズムを大事にしながら、起床や就寝の声掛けをしている。日中も疲労度に応じて、静養の取り入れを行っているが、夜間の睡眠の妨げにならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や医療カンファレンスで、服薬に伴う状態の変化を主治医に伝え、医師からの指示、回答について、他の職員へ周知するようにしている。又、薬の説明書を個別管理し、適宜確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご入居者の状態に応じて、役割を果たしてもらったり、楽しんで過ごせる時間や声掛けを行うよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に行っている。又、ご家族や知人の方との外出・外泊等もできるように支援している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）	天気の良い日には散歩に出かける様に努めています。家族や知人と出かけ馴染みのお店に行かれたり、外泊される方もいますが、外に出たがらない方には無理に外出支援は行わず、駐車場やベランダを利用し日光浴と共に外気に触れて周囲の木々や花などを眺め季節を感じていただくようにしています。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて散歩での外出は自粛をしています。）	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預からず、立替払いとしているが、現金所持を希望される方は、自己責任で所持していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を掛けたい時に取次いだり、貸したりして行っている。ご家族から、荷物が届いた時には一緒にお礼状を書いたり、携帯電話を持っている方もいらっしゃる。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて電話が増えている状況）		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関・廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日温度・湿度チェックを行い、午前中と夜間帯に掃除を行い、快適に過ごせるようにしている。又、写真を飾ったり、季節ごとに壁飾りを変えて楽しんでもらえるようにしている。視覚的にも、香りも楽しんでいただけるよう生花を飾ったりしている。	共用部（玄関・廊下・階段・食堂兼居間）に加え各人の居室の清掃は行き届き、臭気もなく、温度・湿度管理も職員によって行われ、快適に過ごせる環境作りがされています。また、季節の生け花と写真や壁飾り等も季節に応じた変化をもたらして楽しんで貰えるようにしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間でもあるが、配席には配慮している。又、各居室に遊びに行ったり、ソファやコーナーリビングを設けて思い思いに過ごせる工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、できるだけ本人に馴染んだ家具や持物を持ってきて頂くように依頼し、向きなど自宅での配置に近づけられるように工夫している。又、ADLにも配慮しながら見直しを行っている。換気も適宜行い、各居室に加湿器を設置し快適に過ごせるよう努めている。	入居時には、本人が馴染んだ家具や家族写真などの思い出の物を持ち込んでいただくことを伝え、配置などは家族と相談しながら決めていただくようにしています。自作の油絵や仏壇なども持ち込まれています。室内環境では換気も適宜行い、各居室に加湿器を設置して快適に過ごせるよう努めています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部はバリアフリーにしてあり、廊下等には手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。トイレ等には分かるように見出しをつけ、居室入り口には写真を飾り、表札の代わりとした。移乗や立ち上がりの際にも、ご本人の力を活かせるような声掛けや姿勢作りを心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

鎌倉ケアハートガーデン

湘南笛田

作成日

令和3年12月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 49	入居者様の外出支援 コロナウイルス感染防止のため、通常の外出（散歩）を自粛しています。	入居者様一人ひとりの状況に合わせた日常的な外出支援を行う事で、地域の中で張り合いや楽しさを感じて頂く。	コロナ禍の鎮静時には、希望を聞いて各人の状況に合わせた外出（散歩・ドライブ・買い物）など支援の回数を増やして、地域への外出回数の機会も増やし交流が張れるように検討します。	1年
1	2 49	入居者様の外出支援 コロナウイルス感染防止のため、通常の外出（散歩）を自粛しています。	入居者様一人ひとりの状況に合わせた日常的な外出支援を行う。	当面の対応として室内閉じこもり状態回避のためホーム駐車場およびベランダにて外気浴と周辺景色の変化を味わい気分転換を図ります。	
2	13	スタッフの入れ替えが多く、人材の定着、スキルアップにつながらなかった。またチームケアへの認識にばらつきがあった。	スタッフの抱える課題について本人の意見を聞き、年間を通じた研修活動やOJT研修を通じて解決し、人材の定着とスキルアップにつなげていく。	チームワークとしてスタッフをサポートし、本人の課題解決に向けて年間研修スケジュールに沿って、また個人のスキルに合わせたサポート・研修企画・実施をしていく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	鎌倉ケアハートガーデン湘南笛田
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらい 3, 利用者の1/3くらい 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「お客様の元気な笑顔が私達の喜びです」を休憩室と事務所に貼り出し、朝の申し送り時に読み上げ、共有を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、土地建物オーナーが近所の事もあり日常的に交流がある。（農家なので野菜を頂いたりする）また、ボランティアとして地域の方やご家族が来たり、演奏会を開いたりしてくれている。（現在はコロナウイルス感染予防対策にて自粛中）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡会に参加し施設の地域での役割などについて紹介している。（現在はコロナウイルス感染予防対策にて自粛中）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の実施を予定している。防災訓練と一緒に参加して頂いたり、施設内での取り組みについても意見を頂いている。（現在はコロナウイルス感染予防対策にて自粛中）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時は勿論、苦情相談や連絡会による意見交換等に参加し、積極的に運営上の相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部からの不審者侵入防止の目的で玄関はオートロックとなっている旨、家族には理解を頂いている。又、契約書等に拘束しない事を明記、説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護マニュアルに沿って年2回は研修を実施している。又、身体拘束廃止委員会を設置し、2か月に1度の定例で開催し、身体拘束に該当する生活支援・介護が行われていないことを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用されていた方がおり、後見人の方と話し合う機会もあったが、その方は現在は退所されている。ご家族向けには情報としてセミナーの案内なども提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書を見てもらいながら口頭でも説明し、質問が無いか聞きながら進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々面会時やご連絡、ご家族参加のカンファレンス等で、意見、要望の確認を行っている。又、家族懇談会を開催し、意見の聴取を行い運営に活用している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のリーダー会議及び1回/月のユニット会議時、また、2回/年の職員会議では職員同士の意見交流を行い、1回/年の職場懇談会に於いて職員の発信を求めている。又、それを活用している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中であるが、テレビ会議等活用して開催している）		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との個別面談等を定期的に行い、意見などを施設長及びリーダーで取り纏め、要望として代表者へ挙げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画に基づく社内研修の実施・参加、及び未習熟者への個別研修の機会を確保している。また、社外研修の参加や外部講師によるシリーズでの研修等を実施している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）また、資格取得支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社外では、市内の地域密着型サービス事業所との連絡会等や研修へ参加している。社内では、介護サービス事業展開全場所対象の研修を通じ、質の向上に努めている。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時のアセスメントにおいて、センター方式シートを家族・本人と共有し、受け入れの準備を行っている。又、本人を交えた面談や見学等も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15に同じ。疑問・相談に対して丁寧に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基づいた包括的な視点を持ち、家族・本人が最も安心できる方法を共に選択できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝ってもらった時にはお礼を言い、生活を楽しくしてもらえるようにしている。ご本人に出来ることはやっていただき、できないことは共にする関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ケアは協働で行うもの」と位置付け、事前説明および契約時に了解を頂くようにしている。支援の経過や方法も相談しながら対応している。ご家族には協力して頂くことが出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が寂しくないよう、ご家族の面会には制限を設けず、ご友人が来られた場合も歓迎の声をかけることで、気軽に来所できるような環境作りに努めている。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中。オンライン面会を試行中）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係に配慮して配席を決めたり、コミュニケーションの仲介やレクリエーション・生活の場面を通じて交流を支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前入居されていたご家族にボランティアとして演奏会に来ていただいたり、入居者の紹介をしていただいています。また、以前入居されていた方の配偶者が入居されたこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	暮らしの情報シートを事前に記入してもらい、思い・希望の把握を行っている。ご本人がふとこぼした発言を記録に落とし、ケアの改善に繋げることがある。カンファレンス等でも行動の裏にどういご本人の思いが隠れているかをスタッフ皆で考えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	私の家族シート、私の生活史シートを事前に記入してもらい、これまでの人生の経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	私の暮らし方シート、私のできる事/できないことシートを事前に記入してもらい把握に努めている。日々の記録をアセスメントの視点を持って記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お一人に対し、2回/年（認定更新時にご家族にも参加していただいて）のケースカンファレンスを行っている。また、必要に応じて、適宜ミニカンファレンスを開催し、ケアの変更を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の様子、ケアの実践結果、気付きの記録(D-4シート)を記入し、日々の情報共有を行うと同時にケースカンファレンスに活用し、計画やケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者の担当職員やユニットリーダーを窓口として、ユニット内や施設長と相談しながら様々なニーズに応えられる様に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	長くお付き合いのあったご友人等も気軽に会いに来られる様に対応している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）また、本人の在宅時の支援者の情報収集を行う様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回主治医の診察があり、1回/月、主治医、訪問看護師、薬剤師、及び事業所とで医療カンファレンスを行っている。又、日々の変化についても家族・主治医との仲立ちをしながら入居者が適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師に来てもらい、ご入居者の健康チェックや処置等の相談を行っている。変化があった際は緊急性が高ければ電話で、低ければFAXで報告を行い、訪問診療・看護時には医療メモを作成し、情報提供、相談を行っている。また、インターネットを使ったコミュニケーションツール（MCS）を活用し各医療関係者との情報提供や情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、面会に行き、状態の確認と病院関係者との情報交換を行い、退院時期の相談もしている。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて入院先の指示に従って対応している）		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化の指針」について説明している。又、主治医からも訪問診療開始に当り、終末期等の治療・医療体制の希望について意向確認を行い事業所と共有している。容態が変わった時は必要に応じ、主治医、ご家族と話し合い、ケアプランにはその支援内容をのせている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網を作成し、スタッフが普通救命講習を受講するようにしている。（今年度はコロナウィルスの関係で未講習）		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回防災訓練を実施しており、様々な状況に対応出来るように努めている。防災用品の棚卸しも年2回実施している。 地域との協力体制は今後の課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけ、ご本人が分からないことや、失敗してしまったことに対しても、尊厳を傷つけないような対応をしている。ご入居者の前で他のご入居者の話をする時は名前を分からないようにして話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から押付けるような声かけではなく、選択肢を示して尋ねたり、提案するような声かけを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各ご入居者のペースを尊重しているが、認知症の進行に伴い、ご自分で判断出来ない方には、安心、安楽に過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自宅の物をお持ち頂き、洗顔や髪を整える作業を本人がしやすいように支援している。女性は化粧、口紅、マニキュア等を行っている。ヘアカットは毎月1回来ていただいて希望によりカット、カラーを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご入居者の好きな食べ物や飲み物を出し、食事を楽しんでもらえるようにしている。片付けの時に食器を洗ったり、お盆や食器を拭くのを手伝って貰っている。栄養補助食品も高カロリーや減塩等に注目するだけでなく、美味しく召し上がれるものを選択できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一律に決めたものだけでなく、各ご入居者の嗜好に合った飲料の提供、補食の提供、形態の調整を行っている。又、健康維持への配慮は勿論、量やバランスは個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時と毎食後に行っており、各ご入居者の状態に応じた介助もしている。状態に応じて、スポンジブラシや口腔ケアシートを活用している。また、必要に応じて訪問歯科に往診して貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各人の排泄パターンを読みながら必要なケアを行っている。カンファレンス等により見直しを行ったり、方法の工夫なども行っている。壁や廊下にトイレの案内を貼り、場所が分かりやすいようにしている。排泄用品メーカーの定期的な研修を受けて、その人に合った支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、活動量の確保や薬の種類、量の調整を主治医と相談しながら行っている。薬に頼らず、プルーンやヨーグルトなども取り入れている。各人がスムーズな排便となるよう工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を実施する前に、その方の意向を確認し、無理には入らず、体調や気分には配慮している。又、寛いで楽しむことができるようコミュニケーションする等工夫している。いろいろな入浴剤を用意しその日の気分によって選んでいただいたり、ゆず湯や菖蒲湯など季節ごとの入浴を楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の睡眠リズムを大事にしながら、起床や就寝の声掛けをしている。日中も疲労度に応じて、静養の取り入れを行っているが、夜間の睡眠の妨げにならないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療や医療カンファレンスで、服薬に伴う状態の変化を主治医に伝え、医師からの指示、回答について、他の職員へ周知するようにしている。又、薬の説明書を個別管理し、適宜確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご入居者の状態に応じて、役割を果たしてもらったり、楽しんで過ごせる時間や声掛けを行うよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に行っている。又、ご家族や知人の方との外出・外泊等もできるように支援している。（現在はコロナウィルス感染予防対策にて自粛中）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預からず、立替払いとしているが、現金所持を希望される方は、自己責任で所持していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を掛けたい時に取次いだり、貸したりして行っている。ご家族から、荷物が届いた時には一緒にお礼状を書いたり、携帯電話を持っている方もいらっしゃる。（現在はコロナウイルス感染予防対策にて電話が増えている状況）		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日温度・湿度チェックを行い、午前中と夜間帯に掃除を行い、快適に過ごせるようにしている。又、写真を飾ったり、季節ごとに壁飾りを変えて楽しんでもらえるようにしている。視覚的にも、香りも楽しんでいただけるよう生花を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間でもあるが、配席には配慮している。又、各居室に遊びに行ったり、ソファやコーナーリビングを設けて思い思いに過ごせる工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、できるだけ本人に馴染んだ家具や持物を持ってきて頂くように依頼し、向きなど自宅での配置に近づけられるように工夫している。又、ADLにも配慮しながら見直しを行っている。換気も適宜行い、各居室に加湿器を設置し快適に過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部はバリアフリーにしてあり、廊下等には手すりを設置し、安全に移動できるようにしている。トイレ等には分かるように見出しをつけ、居室入り口には写真を飾り、表札の代わりとした。移乗や立ち上がりの際にも、ご本人の力を活かせるような声掛けや姿勢作りを心掛けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

鎌倉ケアハートガーデン

湘南笛田

作成日

令和3年12月10日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 49	入居者様の外出支援 コロナウイルス感染防止のため、通常の外出（散歩）を自粛しています。	入居者様一人ひとりの状況に合わせた日常的な外出支援を行う事で、地域の中で張り合いや楽しみを感じて頂く。	コロナ禍の鎮静時には、希望を聞いて各人の状況に合わせた外出（散歩・ドライブ・買い物）など支援の回数を増やして、地域への外出回数の機会も増やし交流が張れるように検討します。	1 年
1	2 49	入居者様の外出支援 コロナウイルス感染防止のため、通常の外出（散歩）を自粛しています。	入居者様一人ひとりの状況に合わせた日常的な外出支援を行う。	当面の対応として室内閉じこもり状態回避のためホーム駐車場およびベランダにて外気浴と周辺景色の変化を味わい気分転換を図ります。	
2	13	スタッフの入れ替えが多く、人材の定着、スキルアップにつながらなかった。またチームケアへの認識にばらつきがあった。	スタッフの抱える課題について本人の意見を聞き、年間を通じた研修活動やOJT研修を通じて解決し、人材の定着とスキルアップにつなげていく。	チームワークとしてスタッフをサポートし、本人の課題解決に向けて年間研修スケジュールに沿って、また個人のスキルに合わせたサポート・研修企画・実施をしていく。	1 年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。